第２回　国立大学法人琉球大学上原地区キャンパス跡地利用
将来ビジョン検討委員会議事要旨

日時：令和３年５月１３日（木）１５：１０～１６：１０
場所：琉球大学医学部管理棟３階　大会議室
構成員：
（琉球大学）大屋理事（キャンパス移転担当）、大城理事（財務・施設・キャンパスマネジメント担当）、筒井医学部長、移転推進本部　三沼事務部長
（西原町）総務部　與那嶺部長
（西原町民代表）上原自治会　石原会長、棚原自治会　城間会長
（沖縄県）総務部　池田部長（茂太　総務統括監代理出席）、商工労働部　嘉数部長、保健医療部　大城部長（諸見里　医療企画統括監代理出席）
（沖縄総合事務局）経済産業部　本道部長
（学識経験者）小野准教授（琉球大学工学部）、大城前琉球大学学長

【議事】
（１）跡地利用の進め方について
跡地利用の進め方について、資料３に基づき、事務局から説明があった。委員から、跡地利用推進計画の策定時期について確認があり、事務局から移転完了までに計画をまとめたい旨、回答があった。続いて、副委員長から、来年以降のニーズ調査の内容により、時期が見えてくるだろうとの説明があった。

（２）意見聴取（跡地利用に係る具体的な案について）
上原地区キャンパスの現状及び周辺情報について、資料４に基づき事務局から説明を行った後、各委員と意見交換を行った。

（主な意見等は以下のとおり）
◯委員
商工労働部において検討を行っている健康･医療･バイオ産業拠点の形成について説明したい。将来的なグローバル展開を見据えた産業集積を図るための可能性調査の実施や人材育成の推進を行っているが、バイオ関連分野の産業化に向けた資源および施設が不足しているという課題がある。バイオ産業は市場規模の拡大が予測されているため、新たな施策として、健康・医療・バイオ関連産業が有用であると認識している。また、内閣府が公募している「バイオコミュニティの形成」については、積極的に応募したいと考えている。
拠点の形成にあたっては、土地の広さや、大学等研究機関や空港からのアクセス、地価等、既存の産業集積状況等を踏まえて検討を進めていく。琉球大学上原地区キャンパスの跡地利用として、ぜひ沖縄県の健康・医療・バイオ産業拠点の形成を検討いただきたい。

◯副委員長

参考までに、内閣府公募の地域バイオコミュニティに応募するにあたり、アピールする地域の特色をお教えいただきたい。

◯委員

応募を見据えてプロジェクトの地域性について検討していく。

◯副委員長

上原地区キャンパスは、交通の便が良いとは言えない。今後の発展を考慮し、空港からのアクセスについても検討いただきたい。

◯委員

県のグランドデザインの担当部局は異なるが、上原キャンパスの有効活用に向けた周辺及び県全体の計画等も含めた検討をする必要があると考える。関係部局等との連携も行いながら考えてまいりたい。

◯委員

上原地区キャンパス跡地に導入する機能を１つに絞らず、県全体のグランドデザインという視点で跡地利用を検討し、この地域と、さらには県全体の発展のために何が有益かを考えることが必要である。コロナ禍にあって特に必要性を感じたのが、観光産業に次ぐリーディング産業の創出だと考えるが、新たなリーディング産業を目指す食品や医療・バイオ、ヘルスケアなどの産業を振興するにも、産業用地の確保は課題となる。県全体として大きな課題となっている産業用地の確保を背景に考えると、産業用地として利用することも有力な選択肢ではないか。周辺に住宅地もあるため、健康・医療産業用地であれば騒音や渋滞の懸念も少なく、比較的良質な雇用の創出や新キャンパスに整備される沖縄健康医療拠点との連携も期待される。

◯委員

健康・医療・バイオ産業拠点について、IOT の活用も視野に入れているか。

◯委員

一つの分野だけでなく、様々な分野と絡めたプロジェクトはありうる。特に情報産業などは十分に考えられる。

また、県の既存の情報産業特区などではすでに８割程度が埋まっており、施設も老朽化してくる課題がある。これを機に新たな集積を図ることが、産業全体のレベルアップにつながると考えている。

◯委員

企業を集積する方法だけではなく、点在する企業をつなぎレベルアップする方法もあるのではないか。

◯委員

そのような方法も可能であれば活用したい。

◯委員

西原町の海浜部で MICE 計画を立てていること、サンライズベルト構想の中でワーケーションという課題に東海岸をどう取りこむか検討を行っていることから、上原地区キャンパスの跡地利用にホテルは外せないと考えている。さらに、税収の確保という大きな課題もある。

西原町は、町土利用の目標を台地文教地域、傾斜緑地地域、平野地域、臨海地域の 4 つに区分している。当該地域にふさわしい町づくりの施策を進めており、台地文教地域に立地する上原地区キャンパスの跡地利用としてどこまで産業利用を許容するか検討する必要がある。具体的な施設等の情報をご提供いただきたい。周辺に住居があり、道路拡幅の限界もあるため、地域住民と共存した町づくりの観点からも検討したい。

◯委員

健康・医療・バイオ産業拠点形成に関する提案について、企業に立地条件の希望等をヒアリングし、需要を把握しているか教えていただきたい。

◯委員

県内の産業用地が不足していることから、バイオ関連企業が移転先用地を見つけにくく、観光に次ぐリーディング産業を振興するのが難しいという現状がある。企業には、今後検討を進める中でヒアリングを実施したい。

◯委員

医学部・病院移転による夜間人口や近隣アパート住居者の変動などの影響を整理しながら、新しい企業が設置されるとどのような影響があるのかを検討するステップが重要ではないか。

◯副委員長

跡地利用の機能として産業拠点の他、医療・福祉関係、教育関係の可能性もあるかと思うが、色々なご意見をいただきながら方向性を検討していきたい。今後、調査を実施しながら、建物を壊すか、再利用するか等、広く検討したい。

◯委員長

沖縄県、西原町の役に立つ活用をすべきであると考えている。公共施設等に関する LCC（Life Cycle Cost の縮減による長寿命化）を体現する活用法を始め、医療・福祉機能、県の諸課題解決に寄与する利活用方法を検討していいのではないか。